

# あれこれファレンス



ミニ図書館だより【なんでも質問箱】

No. 207

平成27年11月1日

熊本県立図書館発行

## “レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

### Q. おたずね

11月のカレンダーをみていたら、「七五三」と同じ日に「着物の日」と「昆布の日」がありました。初めて目にしましたので、何故この日に来たのか、誰がきめたのかが気になります。わかる範囲でいいですから、教えていただけませんか。

今日は何の日？  
11月15日



### A. こたえ

「着物の日」は、『七五三の日に、家族そろって着物で出かけてほしい』との願いから、全日本きもの振興会が1966年（昭和41年）に設立される時に制定されました。七五三の晴れ着については、一般的には「3歳女兒は初宮参りの祝い着に被布（ひふ）、5歳男児は熨斗目模様（のしめもよう）の紋付に羽織袴、7歳女兒が本裁ち友禅の振袖に帯を締めしごきを着け、懐に筥迫（はこせこ）をいれたものである。」と、『着物と日本の色 子ども着物篇』では述べられています。

「昆布の日」については、日本昆布協会が1982年（昭和57年）に制定しました。「コンニュース」（昭和57年11月号）によると、『誕生から、乳幼児、少年期を経て成人するまでの人生のサイクルの中で、おとなと同じ食べ物を初めて口にする「七五三」の年頃から、栄養豊かな昆布を食べる習慣をつけていただき、子供たちのより健康な成長を祝う古くからの行事（七五三）はまさに理想的と考えています』と、記載されています。

子どもの成長を祝う「七五三参り」をするようになったのは、昔の乳幼児の生存率の低さが関係しているといわれています。また、江戸時代5代将軍徳川綱吉の子、徳松が3歳の髪置きを行ったことから始まったともいわれています。「着物の日」も「昆布の日」も子どもが無事に育ったことに感謝し、これからも健やかに育てほしいという願いをこめて「七五三」と同日になっているようです。

#### 〈参考資料〉

『昆布』	日本昆布協会／編	日本昆布協会	1986年	【667.7／ニ】
『昆布売りでござる』	遠藤章弘／著	こんぶぶんこ	1999年	【667.7／エ】
『図解日本の装束』	池上良太／著	新紀元社	2008年	【383.1／イ】
『着物と日本の色 子ども着物篇』	弓岡勝美／編	ピエ・ブックス	2007年	【753／ユ】



おといあわせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市中央区出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4214 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp